

# 建築用塗膜防水材料

セブンウォール

S工法

なみがた

## 施工要領書

2026年4月改訂版



**Seven Chemical**  
**株式会社 セブンケミカル**

# 目次

1. S工法の標準工程.....	2
2. 適応下地.....	2
3. 施工フローチャート.....	3
4. 注意事項.....	4
5. 施工上の注意.....	4
6. 使用材料一覧.....	6

## 1. S工法の標準工程

工 程		材 料 名	希 釈 (重量%)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	工程時間 (H)	施 工 方 法
1	下塗り	セブンウォールシーラー #200	無希釈	0.15	2~48	中毛ウールローラー 刷毛
	増塗り※1	セブンウォール主材	水道水 (0~5)	0.5	5~48	多孔質ローラー 刷毛
2	基材塗り(1)	セブンウォール主材	水道水 (0~5)	1.0	5~48	粗目多孔質ローラー 刷毛
3	基材塗り(2)			1.0	16~48	粗目多孔質ローラー 刷毛
4	上塗り(1) (艶有/半艶/ 3分艶)※2	セブンウォールトップ MS マイルド	セブンウォールトップ マイルドシンナー (0~10)	0.12	3~48	中毛ウールローラー 刷毛
5	上塗り(2) (艶有/半艶/ 3分艶)※2			0.12	24~最 終養生	

※ひび割れ部分、防水上重要な部位への対応は下塗りと基礎塗りの工程の間で行って下さい。

※1 ひび割れ部分、防水上重要な部位への対応は下塗りと基礎塗りの工程の間で行って下さい。

増塗りを行う部位は、プレキャストコンクリート、ALC版、などの継手目地、建具回り、貫通部回りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部などの膜厚の薄くなり易い部位、開口部回りなどのひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位とします。

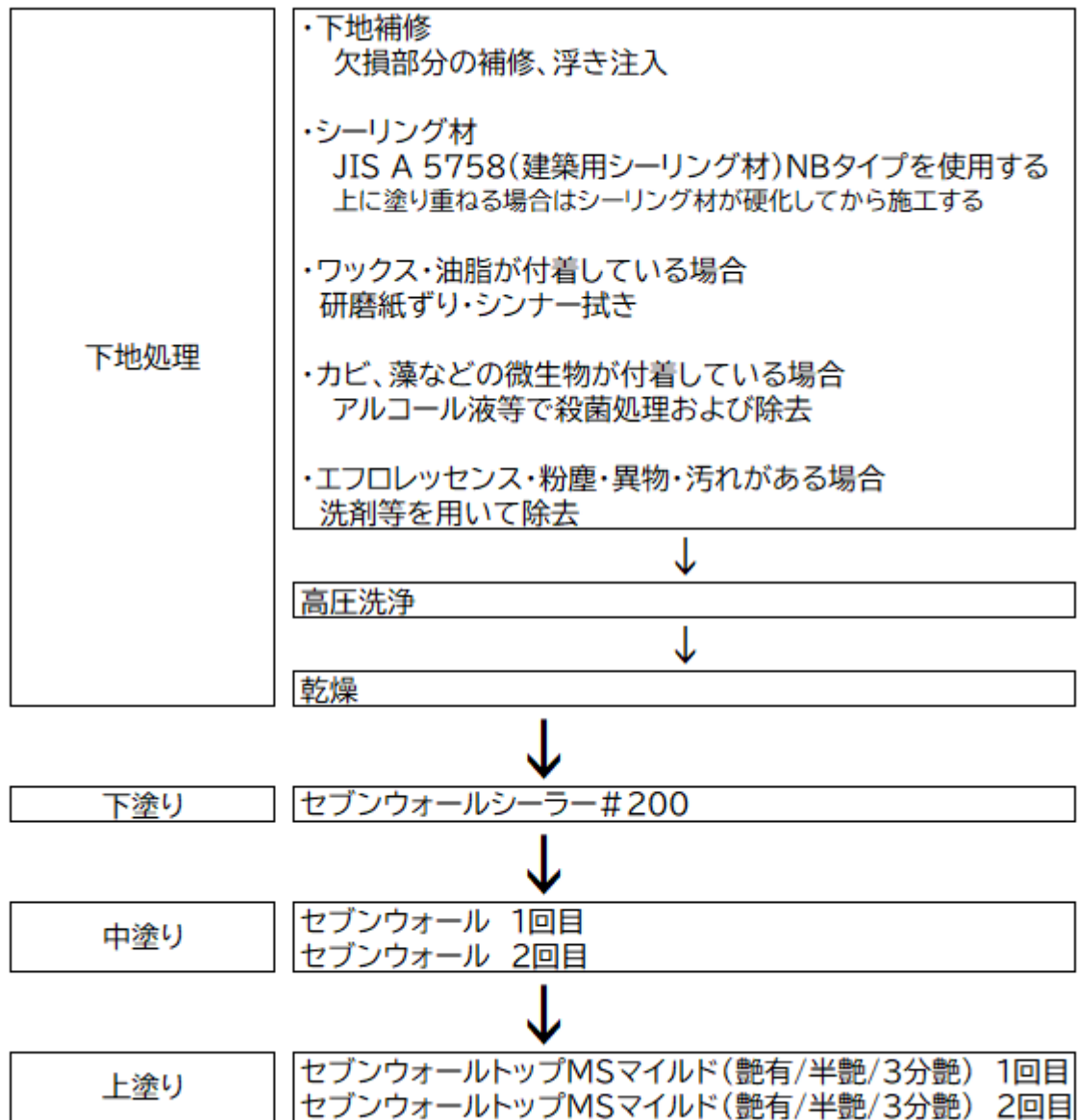
## 2. 適応下地

コンクリート打ち放し仕上げ  
モルタル塗り仕上げの各外壁面

※仕上げ、および付着性は試験施工を行って確認してください

※セブンウォールシーラー#200は強溶剤の為、既存塗膜に塗付けるとリフティングを起こすことがあります。既存塗膜への施工は避けてください。

### 3. 施工フローチャート



## 4. 注意事項

- (1) 外気温が 5℃以下及び 35℃、湿度 80%Rh 以上の場合は施工を避ける。
- (2) 施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
- (3) 強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
- (4) 花壇や擁壁など裏面からの水分供給が予想される部分への施工は避ける。
- (5) 全面を施工しない場合、取合い部から水分の影響を受けないようにシーリング目地で見切り施工を行う。
- (6) 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
- (7) 使用する材料について製品安全データシート(SDS)を事前に入手し、関連諸法令を厳守して施工を行う。
- (8) 労働安全規則等に定められている安全規則に基づき適切な装具を着用する。

## 5. 施工上の注意

施工前の下地の洗浄不足により付着不良を起こす可能性があります。また、「セブンウォール」は JIS A 6021 を取得したアクリルゴム系の建築用塗膜防水材になります。中塗り膜厚を確保することで防水性能を発揮しますので、所要量を守り下記に注意して施工してください。

### (1) 下地処理

- ① 下地の欠損や浮き、ひび割れ箇所などの下地処理を適切に行う。
- ② ワックスや油脂などが表面に付着している場合は研磨紙ずり、およびシンナー拭き等によって除去する。
- ③ エフロレッセンス、塵埃、付着異物は洗剤等を用いて除去後、洗浄剤成分が残らないように高圧水洗などを行い、十分に乾燥させる。
- ④ カビや藻などの微生物が生じている場合はアルコール液等で殺菌処理および除去する。
- ⑤ シーリング材の上に塗り重ねる場合は、JIS A 5758(建築用シーリング材)の規格に適合した 2 液型ポリウレタン系シーリング NB タイプまたは 2 液型アクリルウレタンシーリングを使用し、シーリング材が硬化してから施工を開始する。

### (2) 下塗り

- ① セブンウォールシーラー #200 は既存塗膜に塗付けるとリフティングを起こすことがあるため、既存塗膜の施工は避ける。
- ② 下地の濡れ色が均一になるように施工する。吸い込みによる濡れ色のムラが発生した場合は必ず当日中に薄い部分にセブンウォールシーラー #200の追いかけ塗りをを行い、中塗り以降の工程に移行する。

### ※下地補強塗り <下塗り後に行う工程>

プレキャストコンクリート、ALC版、などの継手目地、建具回り、貫通部回りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部などの膜厚の薄くなり易い部位、開口部回りなどのひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位はセブンウォール主材を 0.5～1.0 kg/m<sup>2</sup>を塗り付ける。

### (3) 基材塗り

- ① 指触確認し、前工程の乾燥後中塗りを開始する。
- ② セブンウォール主材を 0～5%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう攪拌機で均一に攪拌する。
- ③ 粗目多孔質ローラーにセブンウォール主材を十分に含ませ、気泡が混入しないように小面積ずつ配り塗り、均一に仕上げる。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所では仕上がりに変化する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

### (4) 上塗り

- ① セブンウォールトップ MS マイルドは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤と硬化剤を混合し、十分に攪拌する。
- ② 気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、セブンウォールトップ MS マイルドを「セブンウォールトップマイルドシンナー」で 0～10%程度で希釈し、十分に攪拌する。
- ③ 成分が沈降していることがあるため、混合前にハンドミキサーで十分攪拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合する。
- ④ 中塗り材施工の翌日以降に乾燥硬化を確認してから上塗りを開始する。
- ⑤ 上塗り 1 回目を施工後、指触確認出来たら 2 回目の施工を行う。
- ⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。(※1)
- ⑦ 塗り重ね回数による光沢の差異が生じる可能性があるため、目地部分で見切りながら塗るなどして、塗継ぎの際にラップによる光沢に違いの出ないように施工を行う。

※1 昼夜の寒暖差が大きい日や高湿度、結露が発生しやすい時期はブラッシングが起きることがあります。施工時の気象条件にはご注意ください。

## 6. 使用材料一覧

工程	製品名	容量	荷姿	混合比
下塗り	1液強溶剤 セブンウォールシーラー#200	16kg	金属缶	—
基材塗り	1液水性アクリルゴム セブンウォール主材	18kg	金属缶	—
上塗り	2液弱溶剤アクリルシリコン樹脂 セブンウォールトップ MS マイルド 艶有・半艶・3分艶	14kg セット (基剤 12 kg/硬化剤 2 kg)	金属缶	基剤:硬化剤 6:1
		3.5kg セット (基剤 3 kg/硬化剤 0.5 kg)		
希釈	セブンウォールトップ マイルドシンナー	16L	金属缶	—
		4L		



株式会社 セブンケミカル  
 東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F  
 TEL 03(6809)2597 FAX 03(6809)2598  
<https://www.seven-chemical.co.jp>